

Ikeda/Soka Studies in Education : 英語圏の文献レビュー

犬飼 希望

利田 律子 訳

Ikeda/Soka Studies in Education¹は、この10年間で飛躍的な発展を遂げている。これは、多くの高等教育機関での研究所の開設ならびにその研究活動、Ikeda/Soka Studies in Educationに関する書籍や論文の出版、American Educational Research Association (AERA)、Comparative and International Education Society (CIES)、American Educational Studies Association (AESA)などをはじめとする、国際学会での研究発表、パネルディスカッション、プレカンファレンスセッションなどをみても明らかである (Institute for Daisaku Ikeda Studies in Education, 2018)。これらの研究には、歴史的背景をまとめたもの、主要概念を詳説するもの、牧口常三郎 (1871-1944)、戸田城聖 (1900-1958)、池田大作 (b. 1928) の哲学・実践と、他の哲学や理論を比較するものなどがある。主な研究の対象概念には、value-creating pedagogy (創価教育学)、人間教育、世界市民教育、郷土科研究、人生地理学、人権・平和教育、対話、宗教・仏教と教育の関係性、教師と生徒の関係性などがある (Institute for Daisaku Ikeda Studies in Education, 2018)。私自身、2019年秋より、デポール大学の「世界市民育成のための価値創造教育」プログラムにおいて、「Ikeda/Soka Studies in Education」というコースを担当している。このコースでは、Ikeda/Soka Studies in Educationの先行研究を、Goulah and Gebert (2009) が Holquist (2002) の考えをもとに提唱した、「intrinsic research」「extrinsic research」という二種類に分類し紹介している。後者は、さらに comparative research (比較研究)、theoretical research (理論的研

Nozomi Inukai (デポール大学 池田大作教育研究所 研究員)

Ritsuko Rita (デポール大学 池田大作教育研究所 研究員)

¹ Ikeda/Soka Studies in Educationとは、英語圏において、池田大作の教育分野への貢献、また、牧口常三郎から戸田城聖、そして池田大作に受け継がれ、発展してきた教育思想と実践の系譜を研究する学術分野を指す語。牧口・戸田が価値創造という意味で作った造語「創価」を冠した「創価教育」という日本語には、様々なニュアンスが含まれている。例えば、牧口常三郎の提唱した「創価教育学」、池田大作が創立した教育機関で行われている教育、創価学会員の教育従事者が、池田の教育哲学に基づいて行っている教育実践、価値を創造する教育という意味での価値創造教育などがある。英語圏での文献では、この多義性を Soka, sōka または value-creating education などという語を使って区別している (e.g., Goulah, 2018, in press)。本稿では、原文のこれらの区別がより明確に伝わる訳語を使用した。また、必要な箇所には、原文で使用されている英語表現を記し日本語訳を併記している。

究)、empirical research (実証的研究)に分類される。本稿では、この分類法を使って、英語圏における Ikeda/Soka Studies in Education の研究を紹介する。

Intrinsic Research

Intrinsic research とは、牧口・戸田・池田が執筆した日本語の文献を歴史的観点からひも解く研究を指す。言い換えれば、intrinsic research は、著者つまり、牧口・戸田・池田—の思想や実践を、時代背景に鑑み、文化的、政治的、歴史的観点から考察するものである。Ikeda/Soka Studies in Education の分野における初期の文献は、牧口の人生や、牧口の代表的な著作で扱われているテーマについて書かれている (Bethel, 1973, 1989; Saito, 1989; Shiohara, 2001)。最近では、Gebert and Joffee (2007) や Goulah & Gebert (2009) が、牧口の人生と学説を包括的に紹介している。Ito (2009) は、第二次世界大戦時における軍部政府の牧口への尋問内容から、牧口のファシスト政権への批判を考察している。さらに、Goulah (2015a) では、牧口コーバスの概要がまとめられており、これには英語に翻訳されていない文献も紹介されている。

Goulah (2018) は、今日「創価教育」として知られる教育哲学・思想・体系は、牧口の「創価教育学」に端を発すると指摘する (see also Goulah & Ito, 2012)。このような背景から、池田に関する文献は、牧口の人生や学説に言及するものが多い (Goulah, 2010d, 2012b; Goulah & Ito, 2012; Goulah & Urbain, 2013)。牧口に比べ、池田に関する intrinsic research は限られている。これは、池田が自身の半生を詳細に書き記していることが理由として考えられる (e.g., Ikeda, 1980, 2000)。したがって、池田に関する研究では、平和 (Goulah & Urbain, 2013; Urbain, 2010)、教育 (Goulah & Ito, 2012)、言語 (Goulah, 2012a)、翻訳 (Gebert, 2012) といった、それぞれの分野に特化した池田のバイオグラフィーが紹介されていることが多い。戸田に関しては、牧口や池田についての歴史的・バイオグラフィー的研究の中で言及されることがほとんどで、戸田自身、または戸田の教育哲学・実践に焦点を当てた研究は数えるほどしかない (Inukai & Goulah, 2018; Shiohara, 2008; Urbain, 2010)。

Comparative Research (比較研究)

Intrinsic research が牧口・戸田・池田の著作を対象に、歴史的・文化的観点から研究するのに対して、extrinsic research は、これらの文献や、その中で扱われている概念を様々な分野・学問に応用する研究を指す。その中の一つのアプローチとして、牧口・池田の提唱する教育思想を他の教育思想と比較するというものがある。Goulah (2010e) は、フランシス・W・パーカーが牧口の教育哲学に与えた影響、ならびに両者の思想—特に牧口のいう「円満なる郷土生活」という概念—の類似点について考察した。牧口の思想・実践について比較研究の対象となった思想家・研究者には、マハトマ・ガンジー (Sharma, 2002, 2008, 2015, 2018)、孔子 (He, 2013, 2016)、ジョン・デューイ (Garrison, 2019; He, 2013, 2016; Sharma, 2002)、ミハイル・バフチン (Goulah, 2009c, 2013a)、レフ・ヴィゴツキー (Goulah, 2009a)、ルーシー・スプラーク・ミッチ

エル (Goulah, 2010c) が含まれる。Heffron (2016) は、牧口、カール・マルクス、ジョン・デューイ、ジェーン・アダムスを「Educational Leaders Without Boarders (境界を越えた教育的リーダーたち)」という観点で論じ、Sherman (2016) は牧口の価値創造論とマーサ・ヌスバウムとアマルティア・センのケイパビリティ・アプローチを比較した。Hatano (2009) は、牧口の価値創造論の対話的側面と言語学習への応用力について論じる際、バフチンとヴィゴツキーの言語理論を取り入れている。

池田の教育思想について、他の教育思想と比較した研究もある。例えば、Goulah (2010d) は、池田をパーカー、デューイと比較している。Goulah and He (2015) は、孔子の教育思想に通じる、様々な教育哲学者を比較しているが、その中に牧口と池田も含まれている。最近では、池田の思想とアフリカの哲学の比較をする研究も増えてきている (Mino & Heto, 2020; Odari, 2020)。他にも、池田の世界市民という考え方が、コスモポリタニズムやコスモポリタン教育を論じる哲学者にどのように通じるのかについて考察した文献 (Obelleiro, 2012, 2013) や、オサリバンの変容的学習という枠組みから牧口・池田の思想について分析する文献もある (Goulah, 2009b, 2010b)。

Theoretical Research (理論的研究)

Ikeda/Soka Studies in Education の文献の中で、最も多いのが理論的研究であり、特に言語教育に関するものが多い。牧口自身も、言語教育 (読み書き) について多く書き残している。中でも、牧口は教師としての経験を積む中で、作文指導のための文型応用主義を構築している (e.g., Makiguchi, 1898/2013)。Gebert (2013) と Ito (2017) は、牧口の読み方書き方指導について、当時最も使われていた指導方法と比較している。また、牧口の価値創造論は、現代日本における外国語教育 (Hatano, 2013)、言語政策 (Hatano, 2009) や、アメリカの第二言語・外国語教育に関する研究 (Goulah, 2010b, 2013b; Okamura, 2017) にも応用されている。池田の人間教育、対話、世界市民、「教育のための社会」という考えも、日本の英語教育政策 (Hatano, 2012)、アメリカにおける第二言語としての英語教育 (Goulah, 2012c, 2017)、アメリカにおける外国語教育及び海外留学プログラム (Goulah, 2010f, 2011a, 2011b)、言語教育一般に関する研究 (Goulah, 2019; Obelleiro, 2012) に応用されている。

言語教育に関する研究以外でも、言語に関連する理論的研究がなされている。一つ例として挙げられるのは、Gebert and Goulah (2017) による、牧口の著作の翻訳プロセスに関連した論文である。翻訳に関する研究では、Inukai (2013) が、牧口の『創価教育学体系』の原文と Bethel による英訳 *Education for Creative Living* を比較している。Gebert (2012) は、池田の翻訳に対する考え方を論じ、翻訳の読み手、また多くの言語に翻訳される著作の書き手として、池田は翻訳を文化を超えたコミュニケーションの手段とみていると論じている。Goulah (2012b) は、池田の文化間対話の哲学・実践について考察し、「value-creating dialogue (価値創造的対話)」と呼んだ。また、Goulah (2018) は、教育の対話性、対話の役割についても論じ、Bradford (2018)

は池田の対談集の包括的な分析を行った。他にも、世界市民の概念と、池田の対話の哲学に焦点をあてた論文もあり、ここでは対話のツールとしての言語の役割が論じられている (Goulah, 2013a; Goulah & Ito, 2012; Obelleiro, 2013; Sharma, 2011)。

言語教育・言語・対話以外のテーマでも、多くの理論的、概念的研究がなされており、その数は年々増加している。牧口に関するものは、地理教育 (Takeuchi, 1999, 2000)、郷土科研究 (Gebert, 2009)、国家 (Miyata, 2000)、教育的リーダーシップや校長論 (English, 2015; Heffron, 2016, 2018)、現代日本の教育における創価教育学 (Kumagai, 2000) という観点から牧口を思想を分析するものがある。池田研究では、人間教育 (Goulah, 2020b) や世界市民といった概念 (Goulah, 2020a; Obelleiro, 2012) を考究したもののほかに、curriculum theorizing (カリキュラムの理論化) (Cornell, 2020)、平和の哲学 (Goulah & Urbain, 2013; Urbain, 2010, 2018)、人権 (Matsuoka, 2010)、環境倫理 (Goulah, 2010a)、貧困撲滅 (Goulah, 2015b)、リーダー論 (Chilson, 2014; Whitney, 2015)、教員養成スタンダード (Kuo & Aniezue, 2018) の観点で池田の思想を研究するものがある。Inukai (2012) は、中国と台湾で行われた池田研究の主なテーマについて分析している。

Empirical Research (実証的研究)

Ikeda/Soka Studies in Education の実証的研究は、最近の博士論文研究により、増加傾向ではあるが、数は依然として少ない。池田が創立した教育機関以外での研究としては、Goulah (2009b) が、日本語を外国語として学習するアメリカの高校生を対象に、オサリバンの変容的学習論と牧口の郷土科研究にもとづいてつくられたカリキュラムを実施し、美利善の価値が創られたのかを調査した。他にも、日本・アメリカで「創価教育」を実践しているという教育者に、創価教育をどのようにとらえているかを調査したものもある (Hrdina, 2018; Nagashima, 2012, 2016; Takazawa, 2016)。Bradford and Shields (2017) は、EcoJustice の概念を実践する教育者 2 名と、「創価教育」を実践しているという教育者 2 名にインタビューを行い、関係論的存在論・認識論を主眼とした教育的観点・実践について比較分析した。de Melo Silva (2000) は、牧口の創価教育学をもとにブラジル創価学会教育本部により実施された Makiguchi Project in Action と Literacy Poles という二つのプログラムの効果を調査した。Makiguchi Project in Action は現在 Soka Education in Action と呼ばれ、Mokuria and Wandix-White (2020) が、ブラジル・サンパウロの「創価教育」を実践しているという教育者のグループとともに調査をしている。

池田が創立した教育機関における教育に関連する研究は、日本・香港・シンガポールの創価幼稚園で行われ、Ikegami 他 (Ikegami & Agbenyega, 2014; Ikegami & Grieshaber, 2017; Ikegami & Rivalland, 2016) が、教員と管理職の考える幼児教育のあり方、教員児童のかかわり方に関する認識を、池田思想と照らし合わせて分析した。Guajardo and Reiser (2016) は、創価大学でケーススタディを行い、教職員の意識や行動に現れる人間主義の哲学が、同大学のグローバル・シティズンシップ・プログラム (GCP) の基盤となっていることを報告している。Sherman (2019)

も創価大学でケーススタディを行い、大学で学ぶにつれ、学生の世界市民としての自覚が高まることを報告した。Sherman (2019) は、その理由として、世界市民の理想を掲げ、世界的視野をもつことを奨励する大学の教育環境をあげている。アメリカ創価大学で行われた研究としては、Goulah (2012d) が、現役生と卒業生を対象に、同大学で卒業要件となっている海外留学がどのように学生自身の価値創造、人間的成長につながったかを調査した。Storch (2015) は、アメリカ創価大学ならびに他の「仏法を基調とした大学」の歴史とカリキュラムを分析した。また、Inukai (2020) は、アメリカ創価大学の教員を対象に、「よい教師」「よい教育実践」に関する認識を調査した。

また、厳密には実証的研究ではないが、自身の Soka approaches to education (創価的教育アプローチ) を記録した論文も発表されている。アメリカ創価大学の開学前から関わってきた教授の一人である Heffron (2009) は、同大学の Core (コア)、Learning Cluster (ラーニング・クラスター) のカリキュラムや教育実践について、池田・牧口の哲学に照らし合わせて論じている。他には、ニューヨーク市のルネサンス・チャーター・スクールの創立者の一人であるモンテ・ジョフィー氏へのインタビューという形式で書かれた論文もあり、牧口の価値創造教育がどのように同校の設立の構想、発展、運営に影響を与えたかについて書かれている (Joffe et al., 2009)。アメリカの小学校で教鞭をとる Okamura (2017) は、自身の担当する日本語の授業で、牧口の五段階教授による知識啓発主義を応用した。この論文には、寿司を作るという単元を通し、生徒が学んだ日本語を使いながら、美利善の価値の創造者として成長する様子が記録されている。

Ikeda/Soka Studies in Education の可能性

「Ikeda/Soka Studies in Education」のコース以外にも、私はデポール大学で、学部生、大学院生を対象とした教職課程のコースを担当しており、牧口・戸田・池田による著作、また牧口・戸田・池田について書かれた論文も教材として扱っている。これらの教材に初めて触れた学生からの反応も良く、特に、新型コロナウイルス、政治的分断や人種差別など様々な課題に直面した昨年は、多くの学生が、こうした著作・研究に、希望や解決への糸口をみたと話してくれた。戸田城聖に関するコースも終盤に差し掛かった 2019 年 5 月、ジョージ・フロイド氏殺害の事件が起きた。私はすぐに、担当する全学生と連絡をとった。ある学生は、「様々なことを目の当たりにし、どうしたらよいかわからない日々ですが、授業で学んだ、戸田の世界市民の概念を思い出し、私たち教育者が話し合い、振り返り、対話に取り組む機会を作っていけないのだと思うことができました。」と話してくれた。別の学生は、期末試験のエッセー課題に、こう記していた。

アメリカ全土で人種差別への抗議活動が続いている今、人間革命の概念がこれまで以上に身近なものになっていると思います。(中略) 一人一人が、自身の住む地域、国、世界について考えるようになりました。白人至上主義者によって黒人の命が無情に奪われる、痛ましい映像を見て、皆がこの事件のことを考え、内面的な変革を経験していると

思います。

この生徒は、後日、人間革命、つまり個々人の内面の変革こそ社会の変革のために最も必要とされる概念であり、教育者として、この概念を心に刻んでいくと話してくれた。

2020年秋学期、「Ikeda/Soka Studies in Education」のコースを担当していた折、教育者を目指す学生に、課題が山積し、先行き不透明な状況の中でも、教育を通して希望をつくりだしてほしいとの思いから、私がミチオ・オカムラ氏と共著した論文 (Inukai & Okamura, in press) を教材として使った。(この論文は、本年出版予定の Nuñez and Goulah 編纂の *Hope and Joy in Education: Engaging Daisaku Ikeda Across Curriculum and Contexts* に収録されている。) ある学生は、このコースを振り返りこのように書いていた。

苦難に直面したとき、自分の教育の理想を失うことはいともたやすいと思います。デポール大学大学院に入学してから、2019年のシカゴ教職員組合のストライキや、新型コロナウイルスの影響の中、自身の極限まで追い詰められている多くの教育者を見てきました。この論文を、今このような状況の中読めたことは、大変意義のあることでした。特に、心に残っているのは、教育者は、教室の中で、「希望」を動詞として使うことができるということです。両氏が希望の生み出し方を紹介してくれたことに感謝しています。この先、困難に直面することもあると思いますが、この論文を思い出し自身の励みにしていきたいと思います。

別の学生は、この論文を読み、自身について、自分の置かれている状況、教え方への考え方が変わったと書いてくれた。

この論文は、不安を抱くかわりに、行動する勇気を与えてくれました。アメリカに移住して以来、無力に感じるのがよくあり、教育者として、現状を変えることはできないのだと思ってきました。また、経済的・社会的地位が教育の質に影響することを考えると、私にはどうすることもできないと、絶望感を覚えていました。しかし、この論文を読み、私は現状をただ嘆いていただけなのだ、希望を作り出さないといけないのだと気づくことができたのです。生徒とよい関係性を築き、周りの人への思いやりが大切なのだと教える自分を想像し、現状を変えることの難しさにとらわれるのではなく、自分には何ができるのかを考えることができるようになりました。

こうした気づきや学びを得た学生の声は、牧口・戸田・池田の思想が、アメリカ、そして世界の教育者の大きな力となり得ることを示していると思う。私自身、授業を通して、牧口・戸田・池田の思想について学生と話し合い、よい反応を得る中で、教育者として自身が直面する困難の中にも希望と歓喜を見出すことができた。これからも、教育や社会にプラスの変革を起こしていくべく、Ikeda/Soka Studies in Education のさらなる発展に貢献していきたい。

文献一覧

Bethel, D. M. (1973). *Makiguchi the value creator: Revolutionary Japanese educator and founder*

- of Soka Gakkai*. Weatherhill.
- Bethel, D. M. (Ed.). (1989). *Education for creative living: Ideas and proposals of Tsunesaburo Makiguchi* (A. Birnbaum, Trans.). Iowa State University Press.
- Bradford, M. (2018). *Friends in the orchid room: An inquiry into value-creative dialogue* [Doctoral dissertation]. DePaul University.
- Bradford, M., & Shields, M. K. (2017). Resistance to neoliberal ways of thinking through Soka and EcoJustice teaching traditions. *The Journal of School & Society*, 4(2), 15–29.
- Chilson, C. (2014). Cultivating charisma: Ikeda Daisaku's self presentations and transformational leadership. *Journal of Global Buddhism*, 15, 65–78.
- Cornell, M. (2020). Conceptual research in theoretical studies: Intersections of human education and curriculum. *Journal of Curriculum Theorizing*, 35(1), 59–68.
- de Melo Silva, D. (2000). Makiguchi in action – Enhancing education for peace. *The Journal of Oriental Studies*, 10, 62–93.
- English, F. W. (2015). The transformational leader as a thought criminal. In S. J. Gross & J. P. Shapiro (Eds.), *Democratic ethical educational leadership: Reclaiming school reform* (pp. 49–54). Routledge.
- Garrison, J. (2019). 2018 AESA Kneller Lecture, Nichiren Buddhism and Deweyan pragmatism: An Eastern-Western integration of thought. *Educational Studies*, 55(1), 12–27.
- Gebert, A. (2009). The role of community studies in the Makiguchian pedagogy. *Educational Studies*, 45, 146–164.
- Gebert, A. (2012). Daisaku Ikeda and the culture of translation. *Critical Inquiry in Language Studies*, 9(1–2), 15–32.
- Gebert, A. (2013). The writing subject: Makiguchi Tsunesaburo and the teaching of composition. *Journal of Language, Identity & Education*, 12(1), 12–21.
- Gebert, A., & Goulah, J. (2017). Coda: Translating Makiguchi. In J. Goulah (Ed.), *Makiguchi Tsunesaburo in the context of language, identity, and education* (pp. 99–111). Routledge.
- Gebert, A., & Joffe, M. (2007). Value creation as the aim of education: Tsunesaburo Makiguchi and soka education. In D. Hansen (Ed.), *Ethical visions in education: Philosophies in practice* (pp. 65–82). Teachers College Press.
- Goulah, J. (2009a). Considering Tsunesaburo Makiguchi and Lev Vygotsky in the concept of space. *Soka Kyoiku [Soka Education]*, 2, 84–92.
- Goulah, J. (2009b). Makiguchi in the “fractured future” : Value-creating and transformative world language learning. *Educational Studies*, 45(2), 193–213.
- Goulah, J. (2009c). Tsunesaburo Makiguchi and Mikhail Bakhtin in dialogue: Pedagogy for a spatial literacy of ecological selfhood. *Asia Pacific Journal of Education*, 29(2), 265–279.

- Goulah, J. (2010a). Daisaku Ikeda's environmental ethics of humanitarian competition: A review of his United Nations peace and education proposals. *Peace Studies Journal*, 3(1), 1-23.
- Goulah, J. (2010b). Dialogic resistance in education: Tsunesaburo Makiguchi, Daisaku Ikeda and transformative language learning. In D. M. Moss & T. A. Osborn (Eds.), *Critical essays on resistance in education (Counterpoints: Studies in the postmodern theory of education)* (pp. 83-104). Peter Lang Inc.
- Goulah, J. (2010c). Francis W. Parker, Tsunesaburo Makiguchi, and Lucy Sprague Mitchell: Young geographers, geography studies, and community life. *Schools: Studies in Education*, 7(1), 41-46.
- Goulah, J. (2010d). From (harmonious) community life to (creative) coexistence: Considering Daisaku Ikeda's educational philosophy in the Parker, Dewey, Makiguchi, and Ikeda "reunion." *Schools: Studies in Education*, 7(2), 253-275.
- Goulah, J. (2010e). (Harmonious) community life as the goal of education: A bilingual dialogue between Tsunesaburo Makiguchi and Francis W. Parker. *Schools: Studies in Education*, 7(1), 64-85.
- Goulah, J. (2010f). Proposing compulsory study abroad and language learning in elementary through university education: Resisting abstraction in the dialogic space abroad. In J. Watzke, P. Chamness, & M. Mantero (Eds.), *ISLS readings in language studies, volume 2: Language and power* (pp. 335-349). International Society for Language Studies, Inc.
- Goulah, J. (2011a). Daisaku Ikeda, Soka education and foreign language learning: A short essay. *Soka Kyoiku [Soka Education]*, 4, 222-226.
- Goulah, J. (2011b). From abstraction and militarization of language education to society for language education: Lessons from Daisaku Ikeda and Tsunesaburo Makiguchi. In K. J. Saltman & D. A. Gabbard (Eds.), *Education as enforcement: The militarization and corporatization of schools* (2nd ed., pp. 173-180). Routledge Falmer.
- Goulah, J. (2012a). Daisaku Ikeda and Language: An Introduction. *Critical Inquiry in Language Studies*, 9(1-2), 1-14.
- Goulah, J. (2012b). Daisaku Ikeda and value-creative dialogue: A new current in interculturalism and educational philosophy. *Educational Philosophy and Theory*, 44(9), 997-1009.
- Goulah, J. (2012c). Environmental displacement, English learners, identity and value creation: Considering Daisaku Ikeda in the east-west ecology of education. In J. Lin & R. Oxford (Eds.), *Transformative eco-education for human and planetary survival* (pp. 41-58). Information Age Publishing.
- Goulah, J. (2012d). Realizing Daisaku Ikeda's educational philosophy through language learning and study abroad: A critical instrumental case study. *Critical Inquiry in Language Studies*,

- 9(1-2), 60-89.
- Goulah, J. (2013a). Daisaku Ikeda and dialogue on education, in education, and as education. In U. Olivier (Ed.), *Daisaku Ikeda and dialogue for peace* (pp. 83-98). I. B. Tauris.
- Goulah, J. (2013b). Makiguchi Tsunesaburo and language, value-creative composition instruction, and the geography of identity in community studies: A response to politicized imagining and ineffective critical approaches. *Journal of Language, Identity & Education*, 12(1), 22-39.
- Goulah, J. (2015a). Cultivating chrysanthemums: Tsunesaburo Makiguchi on attitudes toward education. *Schools: Studies in Education*, 12(2), 252-260.
- Goulah, J. (2015b). Daisaku Ikeda and poverty eradication: An introductory review. *Soka Kyoiku [Soka Education]*, 8, 41-56.
- Goulah, J. (2017). Climate change and TESOL: Language, literacies, and the creation of eco-ethical consciousness. *TESOL Quarterly*, 51(1), 90-114.
- Goulah, J. (2018). The presence and role of dialogue in Soka education. In P. Stearns (Ed.), *Peacebuilding through dialogue: Education, human transformation, and conflict resolution* (pp. 55-70). George Mason University Press.
- Goulah, J. (2019). Language education into the Anthropocene: Possibilities and perspectives from Soka humanism at the posthumanist turn. *Professing Education*, 17(1 & 2), 6-16.
- Goulah, J. (2020a). Daisaku Ikeda and the Soka movement for global citizenship. *Asia Pacific Journal of Education*, 40(1), 35-48.
- Goulah, J. (2020b). Human education: Daisaku Ikeda's philosophy and practice of ningen kyōiku. *Schools: Studies in Education*, 17(1), 153-170.
- Goulah, J. (in press). Value creation and value-creating education in the work of Daisaku Ikeda, Josei Toda, and Tsunesaburo Makiguchi. In W. H. Schubert & M. F. He (Eds.), *Oxford Encyclopedia of Curriculum Studies*. Oxford University Press:
- Goulah, J., & Gebert, A. (2009). Tsunesaburo Makiguchi: Introduction to the man, his ideas, and the special issue. *Educational Studies*, 45(2), 115-132.
- Goulah, J., & He, M. F. (2015). Learning for creative, associated, joyful, and worthwhile living. In M. F. He, B. D. Schultz, & W. H. Schubert (Eds.), *The SAGE guide to curriculum in education* (pp. 292-299). Sage Publications.
- Goulah, J., & Ito, T. (2012). Daisaku Ikeda's curriculum of Soka education: Creating value through dialogue, global citizenship, and "human education" in the mentor-disciple relationship. *Curriculum Inquiry*, 42(1), 56-79.
- Goulah, J., & Urbain, O. (2013). Daisaku Ikeda's philosophy of peace, education proposals, and Soka education: Convergences and divergences in peace education. *Journal of Peace Education*, 10(3), 303-322.

- Guajardo, M., & Reiser, M. (2016). Humanism as the foundation for global citizenship education. *Journal of Research in Curriculum & Instruction, 20*(3), 241–252.
- Hatano, K. (2009). Voice in EFL Education in a Japanese context: Makiguchi's perspectives in the concept of "voice." *Educational Studies, 45*(2), 165–180.
- Hatano, K. (2012). Daisaku Ikeda's educational philosophy in the context of English education policy in Japan. *Critical Inquiry in Language Studies, 9*(1–2), 118–131.
- Hatano, K. (2013). Makiguchian perspectives in language policy and planning. *Journal of Language, Identity & Education, 12*(1), 50–60.
- He, M. F. (2013). East-West epistemological convergence of humanism in language, identity, and education: Confucius-Makiguchi-Dewey. *Journal of Language, Identity & Education, 12*(1), 61–70.
- He, M. F. (2016). Exploring an East-West epistemological convergence of embodied democracy in education through cultural humanism in Confucius-Makiguchi-Dewey. *Journal of Curriculum Studies, 48*(1), 36–57.
- Heffron, J. M. (2009). Soka Education as a philosophy of life: The SUA experience. *Soka Kyoiku [Soka Education], 2*, 143–147.
- Heffron, J. M. (2016). The transnational context of schooling. In R. Papa & F. W. English (Eds.), *Educational leaders without borders: Rising to global challenges to educate all* (pp. 167–192). Springer.
- Heffron, J. M. (2018). Soka education as a theory of leadership: Implication for the preparation, practice, and for the re-structuration of the modern principalship. *Management in Education, 32*(3), 102–108.
- Holquist, M. (2002). *Dialogism: Bakhtin and his world* (2nd ed.). Routledge.
- Hrdina, J. (2018). *The perceptions of teachers regarding guiding principles of Soka education and their influence in the classroom* [Doctoral dissertation]. Leslie University.
- Ikeda, D. (1980). *My recollections*. World Tribune Press. (池田大作 . (1975) . 私の履歴書 . 日本経済新聞社 .)
- Ikeda, D. (2000). *A youthful diary: One man's journey from the beginning of faith to worldwide leadership for peace*. World Tribune Press. (池田大作 . (1990-91) . 若き日の日記 . 池田大作全集 , 第 36 卷 ; 第 37 卷 . 聖教新聞社 .)
- Ikegami, K., & Agbenyega, J. S. (2014). Exploring educators' perspectives: How does learning through "happiness" promote early childhood education? *Australasian Journal of Early Childhood, 39*(3), 46–55.
- Ikegami, K., & Grieshaber, S. (2017). Re-conceptualising quality early childhood education: What does Soka Education have to offer? In M. Li, J. L. Fox, & S. Grieshaber (Eds.), *Contemporary*

- issues and challenge in early childhood education in the Asia-Pacific region* (pp. 241–258). Springer.
- Ikegami, K., & Rivalland, C. (2016). Exploring the quality of teacher–child interactions: The Soka discourse in practice. *European Early Childhood Educaiton Research Journal*, 24(4), 521–535.
- Institute for Daisaku Ikeda Studies in Education. (2018). Call for Proposals: 1st International Conference on Ikeda/Soka Studies in Education.
https://ikedainstitute.files.wordpress.com/2018/05/cfp_ikeda-soka_studies_conference1.pdf
- Inukai, N. (2012). Ikeda research in China and Taiwan: Critical analysis of the Chinese language literature. *Critical Inquiry in Language Studies*, 9(1–2), 90–117.
- Inukai, N. (2013). Soka Kyoikugaku Taikai versus Education for Creative Living: How Makiguchi Tsunesaburo’s educational ideas are presented in English. *Journal of Language, Identity & Education*, 12(1), 40–49.
- Inukai, N. (2020). *The “being” and “doing” of a “good teacher” from a Soka perspective* [Doctoral dissertation]. DePaul University.
- Inukai, N., & Goulah, J. (2018). Josei Toda: Introduction to the man, his ideas, and his role in the Soka heritage of education. *Schools: Studies in Education*, 15(2), 299–325.
- Inukai, N., & Okamura, M. (in press). Determining to be hopeful in hopeless times. In I. Nuñez & J. Goulah (Eds.), *Hope and joy in education: Engaging Daisaku Ikeda across curriculum and contexts*. Teachers College Press.
- Ito, T. (2009). Reading resistance: The record of Tsunesaburo Makiguchi’s interrogation by wartime Japan’s “thought police.” *Educational Studies*, 45(2), 133–145.
- Ito, T. (2017). The ability to write, the ability to think: Tsunesaburo Makiguchi’s composition teaching method. In J. Goulah (Ed.), *Makiguchi Tsunesaburo in the context of language, identity, and education* (pp. 85–98). Routledge.
- Joffe, M., Goulah, J., & Gebert, A. (2009). Practical implementation of Soka education: A dialogue with Monte Joffe. *Educational Studies*, 45(2), 181–192.
- Kumagai, K. (2000). Value-creating pedagogy and Japanese education in the modern era. *The Journal of Oriental Studies*, 10, 29–45.
- Kuo, N., & Aniezue, L. (2018). Exploring InTASC standards and principals from the perspectives of Soka (value-creating) education. *International Journal of Education*, 10(1), 83–93.
- Makiguchi, T. (2013). How should reading and composition be brought into [clearer] connection. *Journal of Language, Identity & Education*, 12(1), 7–11. (Original work published 1898) (牧口常三郎. (1982). 如何にして読書と作文とを連絡あらしむべき乎. In 牧口常三郎全集, 第7巻 (pp. 271–277). 第三文明社.)

- Matsuoka, M. (2010). The human rights philosophy of Daisaku Ikeda. *Soka Kyoiku [Soka Education]*, 3, 43–60.
- Mino, T., & Heto, P. P.-K. (2020). Educating humans. *Journal of Interdisciplinary Studies in Education*, 9(SI), 33–55. <https://doi.org/10.32674/jise.v9iSI.1814>
- Miyata, K. (2000). Tsunesaburo Makiguchi's theory of the state. *The Journal of Oriental Studies*, 10, 10–28.
- Mokuria, V., & Wandix-White, D. (2020). Care and value-creating education put into action in Brazil: A narrative inquiry. *Journal of Interdisciplinary Studies in Education*, 9(SI), 14–32. <https://doi.org/10.32674/jise.v9iSI.1862>
- Nagashima, J. T. (2012). Daisaku Ikeda's philosophy of Soka education in practice: A narrative analysis of culturally specific language. *Critical Inquiry in Language Studies*, 9(1–2), 132–151.
- Nagashima, J. T. (2016). *The meaning of relationships for student agency in Soka education: Exploring the lived experiences and application of Daisaku Ikeda's value-creating philosophy through narrative inquiry* [Doctoral dissertation]. University of Pittsburgh.
- Núñez, I., & Goulah, J. (Eds.). (in press). *Hope and joy in education: Engaging Daisaku Ikeda across curriculum and context*. Teachers College Press.
- Obelleiro, G. (2012). A moral cosmopolitan perspective on language education. *Critical Inquiry in Language Studies*, 9(1–2), 33–59.
- Obelleiro, G. (2013). Cosmopolitan dialogue in an interconnected, ever-changing world. In O. Urbain (Ed.), *Daisaku Ikeda and dialogue for peace* (pp. 35–59). I. B. Tauris.
- Odari, M. H. (2020). The role of value creating education and Ubuntu philosophy in fostering humanism in Africa. *Journal of Interdisciplinary Studies in Education*, 9(SI), 56–68. [https://doi.org/10.32674/jise.v9iS\(1\).1857](https://doi.org/10.32674/jise.v9iS(1).1857)
- Okamura, M. (2017). Makiguchi Tsunesaburo's knowledge cultivation model and its application to foreign language education. In J. Goulah (Ed.), *Makiguchi Tsunesaburo in the context of language, identity and education* (pp. 71–84). Routledge.
- Saito, S. (1989). A Portrait of the educator Tsunesaburo Makiguchi: Radicalism and the pursuit of universal forms of knowledge. In *Nihonteki shizenkan no henka katei [The process of change in Japanese views of nature]* (pp. 757–772). Tokyo Denki University Press. http://www.tmakiguchi.org/assets/images/Saito1_Portrait.pdf (斎藤正二 (1989) . 日本的自然観の変化過程 (pp. 757–772) . 東京電機大学出版局.)
- Sharma, N. (2002). Value creation, Sarvodaya and participatory democracy—Three legacies for a better way of life. *Journal of the Council for Social Development*, 32, 99–116.
- Sharma, N. (2008). *Makiguchi and Gandhi: Their educational relevance for the 21st century*.

- University Press of America.
- Sharma, N. (2011). Revisiting the concept of dialogue in global citizenship education. *International Journal of Development Education and Global Learning*, 3(2), 5–19.
- Sharma, N. (2015). Can active citizenship be learned? Examining content and activities in a teacher's education module engaging with Gandhi and Makiguchi. *Policy Futures in Education*, 13(3), 328–341.
- Sharma, N. (2018). *Value-Creating global citizenship education: Engaging Gandhi, Makiguchi, and Ikeda as examples*. Springer.
- Sherman, P. D. (2016). Value creating education and the Capability Approach: A comparative analysis of Soka education's facility to promote well-being and social justice. *Cogent Education*, 3(1). <http://dx.doi.org/10.1080/2331186X.2016.1138575>
- Sherman, P. D. (2019). The cultivation and emergence of global citizenship identity. *Citizenship Teaching & Learning*, 14(1), 7–25.
- Shiohara, M. (2001). *A pioneer of girls' education in Japan*.
<http://www.tmakiguchi.org/resources/commentaries/articles-pioneer-girls-education.html>
- Shiohara, M. (2008). The ideas and practices of Josei Toda: A successor of Soka education 1929-1939. *Soka Kyoiku* [Soka Education], 1, 148–161.
- Storch, T. (2015). *Buddhist-based universities in the United States: Searching for a new model in higher education*. Lexington Books.
- Takazawa, M. (2016). *Exploration of Soka education principles on global citizenship: A qualitative study of U.S. K-3 Soka educators* [Doctoral dissertation]. University of San Francisco.
- Takeuchi, K. (1999). Geography and Buddhism in Tsunesaburo Makiguchi's thought. In T. Mizuuchi (Ed.), *Nation, region, and the politics of geography in East Asia* (pp. 3–12). Osaka City University.
- Takeuchi, K. (2000). The significance of Makiguchi Tsunesaburo's jinsei chirigaku (geography of human life) in the intellectual history of geography in Japan: Commemorating the centenary of its publication. *The Journal of Oriental Studies*, 14, 112–132.
- Urbain, O. (2010). *Daisaku Ikeda's philosophy of peace: Dialogue, transformation and global citizenship*. I. B. Tauris.
- Urbain, O. (2018). Bringing out the best in oneself and others: The role of dialogue in Daisaku Ikeda's peacebuilding practice. In *Peacebuilding through dialogue: Education, human transformation, and conflict resolution* (pp. 105–120). George Mason University Press.
- Whitney, R. (2015). The transformational leadership of Daisaku Ikeda: A diamond polishing diamonds. *Soka Kyoiku* [Soka Education], 8, 57–71.